

二・十・七・球・目・

「選ばれるまち・半田」へ
新たな一歩を踏み出しました



榎原純夫

我が国は、人口の減少と超高齢社会という大きな課題に直面しており、全国の各自治体は、今後の都市間競争を生き抜いていくために、皆さまから「選ばれるまち」を目指していかねばいけません。

こうした状況は本市においても同様で、2年ほど前のサービスエースに「住むなら半田市」というタイトルで、「住み良いまち」をPRして多くの方から「住みたいまち」と言っていただけに、本市の強み・良さをこれまでに以上に磨きをかけ、市民の皆さまとともに市内外の皆様へのPRを行っていきたくと記させていただきました。

そして、昨年10月に産業界や大学、金融機関、マスメディアなどのご協力をいただき、人口減少への対応と地域経済の活性化を目的とした「半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

現在、策定した総合戦略に沿って、産業振興による雇用の創出、良好な住環境の整備、子育て環境の充実に向けたまちづくりを着実に進めていると

ころであります。

また、今年1月に開催した「市政懇談会in知多半田駅前地域円卓会議」では、高校生や大学生を中心に若い世代の多くの皆さまにご参加いただき、「若者と考える誰もが住みやすいまち」をテーマに活発な意見交換ができました。

この場で「自分たちのアイデアを活かし実行できる機会があれば」という意見だけでなく、「市民として人との出会いやつながりを大切にしていききたい、自らまちの情報を発信していききたい」という頼もしい発言もいただきました。

この会議での発言を受けて、改めて若者の思いをくみ取る必要性を感じ、本年4月から、高校生、大学生を中心とした16名で構成する『はんだU22研究所』という名称の場を設立して、半田のまちをより良くするため、自由闊達な議論をしてもらっています。

その成果の発表が、去る9月8日開催の「知多半田駅前地域円卓会議」で行われ、私も参加させていただきました

た。

提案いただいた内容は、「多世代の交流」や「情報発信」をキーワードにどれも素晴らしいものばかりで、今後、実現できるよう可能なかぎり、活動支援や施策への反映をしていきたいと思っています。

なによりも、若者たちの半田のまちへの愛着と自分のまちをもっと良くしたいという意欲を感じることができ、大変うれしく思いました。

さらに、本年8月には半田市の魅力を戦略的に発信するために「ふるさと半田応援団会議」を立ち上げました。

この「ふるさと半田応援団」は、公募により参加される市民や、市民団体、企業など幅広い世代の52名により構成され、半田市の魅力を全国に発信する「仕掛け人」としての役割を担っていただく存在です。

今後、「強力なサポーター」として長きにわたりご協力をいただき、「半田ファン」の輪を大きく広げてまいりたいと考えています。

半田市の魅力を全国に発信してい

くためには、オール半田体制での推進が効果的であり、市民の皆さまのご協力が必要です。

ぜひ、普段の会話やSNSなどで半田を話題にさせていただくとともに、半田市にお越しになられた方と接する機会がありましたら、「どちらから見えましたか?」、「どこに行かれますか?」など、お声をかけてください。

皆さまの日頃の一言が、「半田に來たい」、「半田に來てよかった」と思っていたく一番のプロモーションです。

より多くの市民の皆さまが、まちに愛着を持ち、つながりを築きながら、まちづくりに関わっていただけるように取り組んでまいりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



▲ふるさと半田応援団会議の様子